

# 新型コロナウイルス 肥料業界への影響は

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るっている。報道によると102の国と地域で感染者数は11万3千人以上となっており死者は3,900名を突破した。日本では3月10日19時現在、感染者数は540人（内、退院者数は346人）、死者は10人（クルーズ船等での感染者数は含まず）となっている。日本国内の動きとしてはここ1～2週間が感染者拡大を封じ込める重要な時期だとして政府は不要不急の外出を控えるよう国民に呼びかけた。特に人が集まるコンサートや卒業式等のイベント中止や規模縮小、観光業界や交通、飲食店、百貨店等ではインバウンド需要減に加え外出自粛により売上が低下し経営が厳しい状況に追い込まれる恐れも出てきた。また、政府は全国の小中高校に対し3月2日から春休みまでの間を臨時休校とするよう要請し、急な発表により教育現場は大混乱となった。感染者が周囲で発生していない自治体では通常登校のままで体制を維持、または学校を開放し自習させるといった働く親に配慮した機転の利く方法を採用した自治体もある。保育園や学童保育所は通常どおり開園開所としているが、保育士や支援員、介護ヘルパーや医師看護師等の人員確保において幼い子を持つ勤務者のケアが未解決のまま見切り発車となった。子供がいる共働きやシングルの世帯には子供を預ける施設がない等が理由で時間短縮勤務や休暇を余儀なくされ経済的な負担までも強いらせる事となった。また、企業においてはテレワーク等の在宅勤務、時差出勤や出張、会議やイベント参加は自粛となっているところが多く弊社でも実施しているが、都市部では特に経済活動が大きく停滞してきている。

コロナウイルスの特徴も日に日に分かってきた。現在のところ特効薬は開発途上の段階にて、外出から帰宅した際の手洗いやうがいやがシンプルだが自己防衛策としてまた、家族に広げないためにも最善の方法として推奨されている。また、咳やくしゃみが出る時のエチケット（ハンカチやマスクで覆う）のも飛沫感染を防ぐ意味で有効な策とされている。報道ではマスクやアルコール消毒液が薬局の棚から消えて久しいが、3日に政府はマスクメーカーに対し国への売渡を指示した。その他の消費財としてデマによるトイレットペーパーやティッシュまでもが姿を消しているがメーカーは在庫があるとしてデマの流布に歯止めをきかせた。また、免疫機能があると言われていた納豆やヨーグルトが売れているというが、コロナウイルスには効果はないとされバランス良い食事をとる事が良いとのこと。さらに小中高校の一斉臨時休校報道がなされた週末からコメも売れ始めた。これは臨時休校により子供たちが在宅するようになると保存がきくコメを買い貯めに走る家庭が増えた事によるという。当紙の読者ならば既にお分かりであると思うが、令和元年産の作況指数は99であるものの、東北・北陸・北海道の主力産地の作況が軒並み良いため産地や米卸に流通在庫が沢山ある状況で、この騒動は瞬間風速的に鎮静化する事となるだろう。コメの消費量が低迷しており産地・流通在庫もダブつき加減であったため、調整となったかもしれない。また、給食で納めていた野菜が使われなくなったため自治体は廃棄処分するよりも値頃感を出して一般消費者に提供するという動きも出ているのだが、日持ちのしない牛乳等がキャンセルとなり食品業界でも煽りを食らう場面も出てきた。これが長く続けば生産現場にも直結する話なので事の重大さがわかる。

さて肥料業界の方は、メーカー・商社の対応として大都市の営業拠点では必ず事務所には誰かが在職し時差出勤や在宅勤務で対応しているところが多い。ただし、肥料は春の需要期が重要なためメーカー各社は供給責任を果たすべく工場は通常操業となっている。近年の肥料の動きとして当用志向が強まっている事、今期は去年の台風被害の影響により前年比割れの出荷実績となっており今までの荷動きが悪く決して良い状況とは言えない。さらに、コロナウイルスの影響から首都圏に向かう地方からの運搬が低迷し始めたため肥料を積むための帰り荷がなく大型車が取れなくなってきたとの報告があがり始めた。この状況がいつまで続くのか、心配するところだ。次のページで弊社原料グループより中国から輸入する原料事情のレポートをお届けする。1日も早い収束を願ってやまない。

## 新型コロナウイルスの影響～肥料原料編～

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、社会経済や日常生活のあらゆるところで自粛、延期、中止と言った判断が下され、国家の非常事態となっている。しかしながら、私たちが携わる農業は自然を相手にしているもので時間的な融通を利かす事が出来るものではない。従い、様々な情報が飛び交う中で、何が起きているのかを確りと把握しながら、問題に対処して行かなければならない。その中で、今回は輸入肥料原料に与える影響についてお話したい。

日本は肥料原料の多くを輸入に頼っている事はご存知の通り。短いリードタイム、且つ小ロットで輸入できる中国品は市況や為替の変動リスクを回避する上でも都合が良く、輸入原料においても中国への依存度は高い。特に、輸入燐安は9割超を中国品が占めている一方、今回新型コロナウイルスの発生源となった武漢が位置する湖北省は中国における燐酸質生産量の約1/3を占める大生産地でもある。新型コロナウイルス発生直後は中国旧正月の延長や内陸地にとっては生命線でもある揚子江を利用した船輸送を含めて完全封鎖状態だった事もあり、生産・出荷は止まっていたが、船輸送の制限は既に解かれており、工場生産も徐々に回復しつつある。陸上輸送については依然として封鎖状態であるが、今月中には制限が解かれる見込みとなっている。中国国内においても尿素については供給が潤沢ではない状況となっている。石炭を使用した尿素製造工場は環境規制により一部の地域にて減産となっているが、新型コロナウイルス発生より内陸物流の停滞が追い打ちをかけてしまい肥料原料の主力である尿素も中国国内で満足いく供給量が得られず、また近年輸出量が多くなっている被覆尿素も供給がタイトとなっている。中国国内も春肥を控えて需要最盛期に差し掛かっており中国政府も各地方に対して生産・物流の早期回復を指示している状況である。

また、当初は旧正月の長期化に伴う機能低下が要因ではあったが、新型コロナウイルス感染者の拡大に伴い活動自粛が広域に広がった事で湖北省に限らず人手不足等の要因によって生産や出荷の遅れが生じている。幸いにして基幹原料となる燐安は日本の需要期に備えて必要量は手当済みであるが、その他原料については中国側の状況をアップデートしつつ、生産・出荷スケジュールの変更等に日々追われながら対応をしている。私たち商社としてはこのような有事の際に情報収集力や対応力をどれだけ発揮できるかが勝負であり、難局を乗り切るべく鋭意対応して行きたい。(原料グループ)

### 《掲載内容誤りの訂正とお詫び》

1月29日発行号vol.559におきまして直接交付金の表を掲載致しましたが、内容に誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

#### 平均交付単価(修正)

品目	小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	普通大豆	そば	なたね
等級	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
単位/円	60kg	50kg	50kg	60kg	60kg	45kg	60kg
令和元年10月改定金額(円)	6,960	5,500	5,730	8,240	9,120	16,960	9,930
令和2年～4年金額(円)	6,710	6,780	5,660	9,560	9,930	13,170	8,000
増減額(円)	-250	1,280	-70	1,320	810	-3,790	-1,930

品目	てん菜	でん粉原料用馬鈴薯
等級	16.3→16.6%	19.5→19.7%
単位/円	1t	1t
令和元年10月改定金額(円)	7,636	11,798
令和2年～4年金額(円)	6,840	13,560
増減額(円)	-796	1,762

東日本大震災より9年となりました。福島第一原発事故の影響により一部不通となっていた常磐線の区間が3/14に全線開通し茨城・福島在住者は仙台まで行く交通の便が良くなると思います。インフラの復興と共に人が集まり、経済が復興する事も願うばかりです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp